



京都教区時報

特集—京都教区ビジョン作り
小教区の頁—御所教会

第74号

発行所
京都市中京区河原町三条
カトリック京都司教区
広報室 (Tel 211-3768)
編集責任者 村上透磨
編集部 教理センター
田中司教認可

ビジョン作りいよいよ大詰め

——社会とともに歩む教会——

齋木 嘉作(ビジョン事務局)

6月13日(土)・14日(日)、河原町カトリック会館で行なわれましたビジョン作り第二回合宿で、教区ビジョンの一つのまとまりを作ることができたと思えば、それは、六つのテーマをくくる大テーマが決められたことです。それが「社会とともに歩む教会」です。

六つのテーマと言うのは、(1)青少年の育成、(2)教会の魅力と一致、(3)生活の中で、祈りと典礼をどう位置づけるか、(4)教会の自己刷新、(5)社会に対して教会はどのような関わりをもとうとしているか、(6)教会組織の近代化、ですが、前二回の合宿と勉強会を通して明らかになったことは、どのテーマのグループでも社会との関わり、社会の中にある教会の姿、社会の中でしか存在し得ない教会ということが討議されていたことです。そこで、この社会と教会との関係の一番根本的な意義を京都教区ビジョンの大テーマとして、六つの各テーマをまとめる統一テーマにすることが、第二回合宿参加代表者の大多数の賛成で決められました。これによって京都教区ビジョンのイメージが更につかみやすくなるのではないかと思います。社会とともに歩む教会」という意味はどんなことが、少し説明を加える必要があると思います。

第二バチカン公会議以前には、教会と社会とは隣どうし肩を並べて存在しているか、もつとひどい言い方をすれば、社会は教会に対

して敵対するもののように考えていました。確かに、キリストの福音に照らして見れば、社会には、福音と合わないこと、福音と逆のことが多くあります。「この世」という言葉は、目の欲、肉の欲、生活のおごり、につきまといわれています。しかし、このように考えることによって、かえって福音の働く現実の場を見誤ってしまう危険があります。

キリストの福音は、すべての人々に宣べ伝えられなければならないとイエズスが言われましたが、人々の生きていく場こそ、この社会であり、福音を保持し伝えている教会こそ、この社会の中にあります。そして、私達は、この福音の恵みと力を入々に与える使命を持っているというより、社会の中にある福音的なもの、人々の中にある福音的なものを、むしろキリストの福音のメッセージとして教会の中に受け入れていく使命を持っていると言った方がよいのではないかと思います。ですから社会の中での教会はあり得ないとも言えるでしょう。このことが、私達の教会のいろいろな働きの中台となるので、大テーマとして、六つのテーマの上に出したわけ

です。
このビジョン案を、京都教区の皆様でもう一度見直していただきたいと思えます。

(五〜八頁に特集)



- ▽8月7日(金)〜9日(日) 教会学校リーダー研修会(河原町)
- ▽8月15日(土) 聖母被昇天の祭日
- ▽8月17日(日) 邦人司祭月例会
- ▽8月19日(水)〜21日(金) 日本青年宗教者会議(青森)
- ▽8月25日(火)〜28日(金) 全司祭・修道士研修会(多治見)
- ▽8月31日(日) ライムント田中司教の霊名の祝い日
- ▽9月7日(日) 司祭評議会
- ▽9月13日(日) 草津教会堅信式。甲南ニュータウン新教会祝別式
- ▽9月15日(火) 内藤寿庵顕彰碑祝別式
- ▽9月15日(火)〜16日(水) 東海地区学校連合研修会
- ▽9月20日(日) カトリックスカウトの日
- ▽9月21日(日) 邦人司祭月例会
- ▽9月27日(日) 長岡教会堅信式

神のいつくしみのもとに

——子羊会創立25周年

五月二十四日、子羊会の銀祝を祝う集いが、洛北、高野教会で行なわれた。参加者は、折からの雨にもかかわらず、東京からお祝いにかけて下さった子羊会の友好会代表、S師、K氏はじめ友の会のみなさん羊併せて約三百人。

午後一時、田中司教様と十人の司祭様方による共同司式の感謝ミサからこの日の行事が始まる。信者もそうでない人も、心一つに感謝をささげ、より聖心になろう子羊会になれるよう努力することを、ミサの間中祈り心にちかかった。

ミサの後、会場を伝導館に移してささやかな祝宴がくりひろげられた。テーブルの上のご馳走はすべて婦人会の皆さん、シスター方の手づくり、おすし、サンドイッチに赤飯、ケーキ等々、ビールとジュースで乾杯の後、祝辞、勵ましのお言葉を頂き乍らご馳走を頂くことも忘れず、話しに花を咲かせ、その間子羊ひとり一人の手をとり腰をかがめて話しかけられる司教様のお姿にキリストを思い、感謝のうちに子羊会に課せられた責任の重さも痛感するのだった。(子羊会・伊達記)

義が行なわれますように

——第四回人權を考え祈るミサ

人權を考え共に祈るミサも回を重ねること四回、今回は、六月二十八日午後一時からカトリック会館に於て田中司教様越知、村上(弟)両神父様共同司式のミサ

で行なわれた。いつも、共催グループそれぞれが行なっていた発題を子羊会のみとして、太田幸子さんに発題してもらおう。国民の基本的な人種の一つに選挙権がある、これは国民の義務でもあり、すべての国民がこれを遂行出来るようこの権利は法律によって守られている。不在投票、点字投票、郵送投票等、ところが病床にある盲人に当然認められるべき筈の点字

による郵送投票が、過去の不正を理由に現在は認められていないという太田さんの発言に大きなショックをうけた私たちは、この不条理を叫び、法の是正を求めて、闘っている病床の盲人Mさんを全面的に支援することを決意し、神の導きを祈ったのだった。

種は蒔かれたが

——安土セミナリオ跡祝別

織田信長四百年祭行事が5月30日より6月7日まで滋賀県安土町で行われている折、5月31日京都教区もこの行事に協賛。午前10時より公民館において、ガスバリ教皇大使、田中司教、古屋司教、辻安土町長の出席のもと、26聖人記念館長結城了悟神父の「安土の屏風がローマへ行く」と講話があった。「信長とオルガンチノ神父の暖かい交流があり、狩野永徳筆の安土城周辺を描いた屏風が今も、ローマのどこかにある筈」と力説された。

その後、聖三木パウロの遺骨をガスバリ教皇大使が奉持しながら、信徒は各教会別になり聖歌を歌いながら、セミナリオ跡まで行列、沿道を行く観光客もこの

行列に加わりにぎわった。

セミナリオ跡では、記念碑の安土セミナリオと三木パウロ 除幕式、ついで、ミサが行われた。教皇大使は「安土の人々に深い感謝を捧げ、愛と平和に基づいた町に神の恵みがありますように」と、あいさつされた。

教会が地域社会に溶け込むいい機会であった。進行係の三俣氏はじめ準備をすすめて下さった人々に感謝しつつ。



安土セミナリオ跡祝別式

よい実をむすぶ

——南婦連總會

京都府下南部19小教区婦人による南婦連は歩みを共にして14年、九代の会長を経て現在に至っている。岡、村上(真)師の指導のもと、信仰を深め、外に向っての信仰の表現もより鮮明になった感がある。田中司教叙階式典、古屋司教祝別祝典時の一切の世話、ウオカソンへの援助、エキユメニカル世界祈禱集会への参加等多くの實りを結んで去る6月16日、南婦連として最後の総会をもって閉じられた。

キリスト自身に従った婦人たちのように、たゆまず労をいとわず小教区を超えての行事につくしてきたメンバーの努力

に拍手を送りたい。

南婦連はあらためて「南信協婦人部」として新たな歩みを始めることになっている。メンバー同志横のコミュニケーションもなめらかになり、司教、司祭グループにも覚えてたい同組織に寄せられる期待は大きい。

キリストのこころを

——長浜教会バザー

長浜教会では日本キリスト教団長浜教会と合同で、7月5日国際障害者年に因むバザーを催した。長浜地区の小さな群の行事であったが、両教会のメンバーが協力して、少しでも地域社会に対して、「キリストのこころ」を開いていくきっかけとなった。また両教会の交流もさかんになり、お互いが街角で出会うと、祈りのことなど会話を交わす姿も見られるようになった。教会一致運動が小教区のメンバー一人一人の祈りと働きによって、推進できることを各自が確かめあった。

愛を人々に告げよ

——映画フィルム貸出し

聖パウロ女子修道会では次のフィルムを貸出します。

- ※「平和の巡礼者」四万五千円(内五千元は出張料 当日続いて上映する場 合二万円)
- ※「マザーテレサとその世界」(三万五千元第二回上映の場合一万五千元)

お問い合わせは園田修道院(06・491・106)又は教理センター(075・761・9095)

彼等の苦しみは

アジアとアフリカの 飢える人々のために

飢えに苦しんでいます。湯きにあえいでいる人がいます。アジアとアフリカの人々、特に子供達の苦しみは言語に絶するものがあります。彼等に一杯の水を与える事が出来ないでしょうか。一切のパンを捧げる事が出来ないでしょうか。

アフリカ難民救援特別キャンペーン ——カリタス・ジャパン——

アフリカの兄弟が戦争、洪水、伝染病、かんばつのため飢餓に苦しめられています。

助けて下さい 彼らを救って下さい 彼らを励まして下さい 彼らを

生かして下さい 彼らを平和を下さい 彼らに

微笑を戻して下さい 彼らに愛を示して下さい アフリカに

飢餓に苦しむ人々の数は次の通りです。

- アンゴラ 85万人
- チャド 90万人
- ジブチ 13万人
- スーダン 300万人
- ウガンダ 300万人
- ジンバブエ 66万人
- 中央アフリカ 120万人
- ソマリア 150万人
- エチオピア 500万人

皆さんのあたたかい援助を期待します。

募金で、カンボジア難民のために

(聖母学園)



「いまなお飢えに苦しむカンボジア難民に必要なのは自給自足のための援助」の訴えにこたえて、聖母学院高校生ら二十人は6月20日からキャンペーンを始め四条大橋で道行く人に協力を求めた。少なからず中だるみの感を与える今の日本人の、アジアの兄弟への援助。かれらは絶望のフチに追いやられてしまふ」と語るカンボジア難民救援会事務局長小野了代氏のことばに再び緊迫感を呼びもどす。荒地でも育ち、畑の肉といわれる栄養豊富なタイズを送ることにした同救援会の活動に読者の皆さんの善意のひとつが難民のひとり一日の食糧にかわるよう切に訴えたい。

里親制とTシャツで

インドの少年の友に

(聖母学園)

インドの人々の苦しみについては、すでに多くの人々が知っており、その痛みを少しでもやわらげようと、小さくても暖かい手がさしのべられつつある。

ノートルダム・Sr.ジーンを中心にしたインドの里親制の運動も多くの協力者を得て、発展しつつある事は、すでに、お報せした。

聖母でもSr.ホームマンの令兄、ジョー・ホームマンの運動に協力する、里親制度、ボーイズタウンの援助活動が静かに行われつつある。里親制の方は、まず各学年が一人ずつ受け持つ事とし、ボーイズタウンの協力では、Tシャツを送る呼びかけをしたところ、10kg入りダンボール箱が10箱も出来上り、嬉しい悲鳴と涙がシスターの頬を伝わったとの事である。この運動には、先生、父兄、同窓会の参加が多く、特にスポンサーになってくださる方も多いとか。

この様に小さな善意の燈は少しずつ高まりつつある。

切手で、

四日市メリノール女子学院

平和、それは痛みのわかる心から。昨年、中学一年のクラスで、「この一年間、クラスとして何をやりたいか。」と問うた時、ある生徒が、「何か人の役に立つことをしたい。」と答えた。いろいろ話し合った結果、古切手を集めて、難民救済に当てることにした。クラスの協力は予想を上回り、結果、BCG六十人分の資金援助に役立った。

今の子供達は恵まれすぎている、と言われて久しい。何不足のない生活の中で、感謝の心さえも忘れた現代っ子に、奉仕活動の意義を説くのは難しい。しかし、このような彼女達の微々たる行為の中に善の心を見出し、育ててゆくことができれば、やがては「痛みのわかる心」の持ち主になつてくれると信じている。

アフリカの飢える子供達の
ために歩こうオーカーソン

11月3日。みなさん時間をあけておいて下さい。多くの皆さんの参加を期待しています。(詳しくは次号で)

京都ウオーカーソンは今回で三回目を迎えます。みなさんの御協力により昨年は参加者210名、スポンサー2千余名、募金総額150万600円でした。多くのアフリカの子供達が飢え死にして行きます。彼等に一杯の水を、一切れのパンを下さい。

製菓材料・舶来食品
和洋酒・修道院製クッキー
ミサ用ブドウ酒

タキノ

〒604 京都市中京区錦小路通鳥丸東入
電話 (221) 0976-7

御葬儀一切の業務を厚く皆様に
尽くす事をモットーに奉仕させて
いただきます。

右京区嵯峨野開町

厚志社

TEL 871-3506

司教の足どり

五月〜七月



5月

- 16日 奥村師と面談(WOREC)
- 16日 17日⑩ ビジョン作り勉強会(北白川、ニコラス師)
- 17日⑩ スタインバック師司祭叙階金祝記念ミサ(河原町)。教皇狙撃事件に伴い特別祈願(全教区)
- 18日 邦人司祭月例会。明恵上人高山寺展(国立博物館)。上京
- 19日 22日 司教協総会(東京)
- 23日 クランシー師(MM香港)、西本師(CSRマニラ)来訪
- 24日⑩ 子羊会創立25周年記念ミサ(高野)
- 25日 老母、老司教の見舞(聖マルチン病院)
- 26日 ローマ諸宗教聖省へ国際電話
- 27日 奥村師と面談(WOREC)
- 28日 諸宗教JCCR委(知恩院)
- 29日 京都教区カリタス会理事会
- 30日 聖母女学院創立記念ミサ(中高)。マリスト会副総長来訪
- 31日⑩ 信長四〇〇年祭カトリック行事(講演・行列・ミサ、安土七ミナリヨ跡)。(ゲイヤモンド祝、

6月

- 1日 大使、結城師離洛。浅草観音主生師とローマへ出発
- 2日 ローマ着、アテネオ・サレジアノノ泊
- 3日 諸宗教聖省、無宗教聖省、信徒使徒職聖省、正平協聖省訪問
- 4日 諸宗教聖省関係者とWOREC打ち合わせ会議
- 5日 王生師をカタコンブ、トラビスト、小さき姉妹本部へ案内
- 6日 アテネオ・サレジアノノ図書館、コンピュータ室見学。聖ペトロ大聖堂での夕べの式典に参列
- 7日⑩ コンスタンチノープル第一公会議一六〇〇年祭、エフエゾ公会議一五五〇年祭式典に参加。(河原町教会堅信式)
- 8日 11日 ローマ発。アムステルダム経由、無事帰国
- 12日 留守中の事務処理。WOREC準備連絡(東京、その他へ)
- 13日 14日⑩ ビジョン作り合宿(河原町)
- 15日 邦人司祭月例会
- 16日 奥村師と面談(WOREC)。南婦連総会ミサ。
- 17日 五条警察署訪問(諸宗教長官警備)。教区時報編集部会
- 18日 女子ドミニコ会総長来訪
- 19日 21日⑩ 諸宗教長官一行の関西地区訪問に同伴。一行司教館泊。
- 21日⑩ 上京
- 22日 長官とJCCR構務局(明治神

Sr. M. エージニア S.S.N.D.)

- 宮)、立正佼成会本部を訪問
- 23日 25日 WOREC(世界宗教者倫理会議)に出席(東京)
- 26日 WOREC京都の集いに出席
- 27日 長官一行と大本本部を訪問。一行を東京・ローマへ見送る
- 28日⑩ 人権を考えるミサ(河原町)。ギリシャ正教A司教泊
- 29日 部活問題に取り組む宗教者連帯総会(東本願寺)。A司教離洛
- 30日 團部教会、その他を訪問

7月

- 1日 WORECリポートまとめ。司祭研修準備会
- 3日 越知氏(財務委)、Sr.中津来訪
- 4日 (宗)責任役員会
- 5日⑩ 河原町ミサ。衣笠墓地委員会
- 6日 司祭評定例会
- 7日 10日 グラム休暇(SSND、フーレス司教訪問)
- 11日 相馬司教と面談。岩滝教会にてミサ
- 12日⑩ 加悦教会にてミサ
- 13日 臨時邦人司祭集会
- 15日 L.M使節C女史と面談

信徒使徒養成コース

第8回 基礎コース

日時 9月12日(土) PM5時半集合
9月15日(火) PM5時解散

お知らせ

場所 宇治カルメル会 黙想の家

第9回 みことばと典礼コースII

(みことばと典礼I修了者に限る)
日時 10月9日(金)〜10月11日(日)
場所 北白川教会

第10回 折り又は病者コース

日時 11月21日(土)〜11月23日(月)
場所 宇治カルメル会 黙想の家

申込先 京都カトリック教理センター

メリノール女子学院に

IAC 発足

去る6月27日、メリノール女子学院高等学校にもIAC(インター・アクト・クラブ)が発足し、その認証状伝達式が四日市ロータリークラブの主催で行なわれた。

IACとは、奉仕活動と国際理解を目的とした全国的、国際的な高校生の組織である。県下にあるIACは、それぞれの特徴を出しながら、自由な活動を行っている。岐阜県と三重県を合わせた地区(二六三地区)の年次大会や県内の交流会、また海外派遣などの行事もある。同校にはすでにメリノール・サービスクラブ(MSC)という奉仕クラブがあり、部員も両者にまたがる者が半数程いる。発足したばかりで、活動実績もないが、MSCと協力し、地味で息の長いクラブに育つことを目指している。

特集

教区ビジョン作り六つのテーマ

三回にわたるビジョン作りの合宿と勉強会では、九つのブロックから出されたビジョン案を、以下の六つのテーマに分けて検討した。これらのテーマをもとにして、「社会とともに歩む教会」という大テーマを作り出していった。

テーマ1

青少年の育成

一、青少年のどのような成長を目指すか
(1)青少年を育てるとするのは、青少年の自由な可能性に富んだ成長を助け支えることである。

(2)我々の目指すものは、青少年の一人一人が、人格的な自由と自立に向う成長を更に完成していく信仰を積極的に育てることである。神の恵みは、人間の自然的良き、性格などをこわすのではなく、それを強め完成させてくださる。それ故に、青少年自身が自らの意志で、自らの信仰の証しができるよう、そして自ら信仰上の自己の責任を果すことができるよう成長するのを助けることである。親、教会、司祭に強制されて教会に行くのは、本来の信仰の姿ではない。

二、この為に感動的な信仰の生き方を知らせる。
このような生きた信仰を育てていく為に最も説得力のある導きになるのは、

信仰によって一生懸命生きている人の生き方であろう。そのような人は、必ずしも聖人である必要はなく、自分の親、目上の人、先生、司祭、友人、病

気や身体の不自由な人、貧しい人、圧迫されている人の中におられる、真に信仰を生きている人々である。その新鮮な感動が青少年にとって最も説得力のある信仰の励ましとなるであろう。また、青少年が育っていく中で、「人間

が大切にされている」という体験を持つことができれば良いであろう。

(1)家庭Ⅱ親の生き方が大切である。特に家庭において、「一人一人を大切にすること」ということを忘れてはならない。

※子供と真剣に関わり、しかることも、子供と話し合うことも、真実をもつてする。

※子供を自分のものとせず、神の前で対等のものと考えよう。

※子供に、自分の信仰を大切なものとして伝える。

(2)教会Ⅱ青少年を集めることにこだわるよりも、青少年をキリストに出会わせる努力が大切である。

※真に信仰に生きている人との出会い

こそ、信仰の友との団結の力となる。
※キリストの教え、福音、ミサなどを青少年が正しく理解できるようにする。

※教会は、近代の多様な文化にどう答えて行くかを青少年に示す。

※成年信者の真剣に信仰に生きる姿勢の証しが必要。

※人間の成長の各段階と個人の個性に応じた体験の場を作る。(例小学校「ロールプレイ」一人一人の役割をきめて演ずる劇・遊びなど)・中学生「黙想会」大学生「海外研修」

※親許を離れている青少年信徒に対して、教会が家庭としての役割を果す。

(3)青少年自身の活動Ⅱ青少年が、教会と信仰に対するはつきりした意識を持ち、

テーマ2

教会の魅力と一致

話し合いの経過

このテーマの話し合いは、教会の現状をみつめほり下げながら、次の諸点にまとめられるよう、自らへの問いかけとして進められた。

(1)教会は、現代社会の中で真の救いのしるしとなりきっているだろうか。私達自身、教会の真の魅力(福音による救い)について充分わかっていないのではないか。

(2)教会の中での話し合いは充分できていだろうか。教会の人間の成熟や権威

教会・社会との関係を積極的に持つ。

※ボランティアなどの活動に参加。

※聖書を学習する機会を積極的に作る。

※信徒と司祭・修道者との真の意味の人格的交わりを深める。

※青少年が教会の成員として積極的に働く自覚。

三、召命について。

召命の恵みは、これらすべての努力の上に、神が準備してくださる。特に青少年が、自分を完全に捨てた生き方をしていく司祭・修道者に出会って召命に目覚める体験は貴重である。

※召命の芽を育てる積極的な助言や、各修道会についての知識が得られるような機会を作ることが必要である。(齋木)

主義がその妨げとなっているのではないか。

(3)教会の外への話し合いができていないのではないか。

以上についての否定的な現状認識を土台にして、今後の方向をさぐった。その中から次のようなことが出された。

(1)いろいろな関わり(特にしいたげられている人々との関わり)を通じて自分を知り、他者を理解しながら協働の関係を作っていく。

(2)変化に気づき、それを受取りながら自己本来の姿を確立して、人間として成熟していく。

(3)形式的な権威主義を克服していく。

(4)社会に迎合するものではないが、柔軟

に対応していく。
さらに、これらの方向の根になってく
るものとして「対話的關係」の不足と必
要性が指摘された。

では、その対話とは何か、どうすれば
対話ができるのか。そして、話し合いを
通じて創られる対話的關係とは何かとい
う点に焦点をしばらくながら、話し合いを
進めた。そこで明らかにされたのは次の
ことである。

(1)話し合いが深められ、質的に一致して
きたとき対話は生まれる。対話は自分
が変わることを伴う。

(2)対話では他者に耳を傾けることが必要
で、このことを通じて自分の足りなさ
に気づいていく。

(3)対話は、心が通じ合うとき、無言のう
ちにもできる。

(4)対話は、こちらが議論に負けるとき、
相手に通じるといふ発展の仕方をする。
(5)キリストは神のみことばを実存的に受
けとめ、生活の中で人々と対話してい
かれた。

(6)現代社会は、人間を物としてしか見よ
うとしない(物象化)。教会は自らを点
検して、真に対話的關係を創り、社会
に示す使命がある。

(7)組織が固定化してくると、人の心が枯
渇してくる。

以上の経過を経ながら次のような方向
と課題にたどりついた。

〈結論〉

方向——教会における対話關係、つまり

開かれた教会共同体をつくる。

(1)三位一体の神は三位の間に対話がある。

(2)神との対話が信仰の根本であり、キリ
ストは対話のうちに教えられた。

(3)人との対話ができずに神との対話ので
きるだろうか。

(4)共同体を生かす神祕は神のみことばの
うちに求められる。

課題——現行制度の再流動化をはかる

(1)権威に頼らず現実を直視して、自由な
話し合いを促進する。

(2)自己のよって立つ社会の現実(物象
化)自己疎外)に照らして、教会共
同体の中味を点検する——教会共同
体と社会との關係。

(3)対話に至るには自由な立場での話し
合いが前提となる。

(4)他者の言葉に耳をかし、己れを変え
多くの人を消極化している。



る勇氣を持つことが対話のための必
要条件である。

(2)現行制度の点検。
現行制度を絶対視せず、可能なもの
の一つと考え新しい制度をさぐる。

(江口)

テーマ3
生活の中で祈りと典礼を
どう位置づけるか

〈初めに〉

前回までの合宿で見て来たことを土台
にして、京都教区の中で指向する方向と
解決すべき課題を明確にすることに焦点
を絞って話し合いが始まった。

現状と原因が、まだ十分に深められて
ない面もあり、方向性を探すのに苦勞し
た。

〈討議内容〉

※KJ図から、祈りと典礼についての理
解と勉強の不足が多く出されている。
※新しい流れとして、共同体という面が
はつきりと出されている。

※この新しい流れが出て来たために、従
来のものが古いものとして取り残され
る結果をもたらしている。

※変革には、危機感が必要である。
※広い視野を育てる努力が必要である。

例えば、近隣の他小教区の典礼に参加
したり、プロテストメントの典礼を見た
りしながら、典礼をつくり上げる努力
を小教区で工夫できるようにすれば素

晴しい。
※家庭での祈り・典礼も、KJ図に出て
いる。しかし自分一人信者という家庭
も多い。その意味で、教区として指向
する方向として出せるものかどうか。

※生活の中に活かすということは、典礼
が自分たちのものという自覚から生ま
れてくるのではないか。

※典礼は、一つの神体験でもあるので、
こうした体験を大切にすべきである。

〈話し合いの経過〉

※全体的に見て、典礼を理解するとい
うことが、一つの方向性として出てく
るのではないだろうか。即ち新しい流れ
はもう始まっているので、それにどう
すれば適應できるのかということでは
ないだろうか。

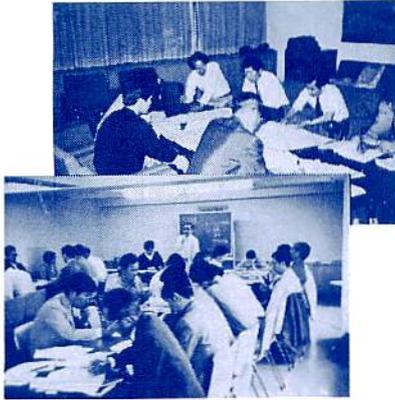
大項目—新しい流れに適應するために
方向—(1)典礼の新しい流れの理解と体験
を更に深めることに注力する。

課題——典礼研究会の充実をはかり、小
教区、家庭で理解と体験を深める方
法を考える。

※典礼研修会に参加するというだけで終
わらず、それを出発点として、小教区や
家庭での理解と体験を深めるよう、そ
れぞれ具体的に努力していく。例えば
小教区での典礼研究会など。

※原因として出て来たことも、以上のこ
とを通して、解決の方向へと進む努力
が必要である。④(一)聖と俗の二元論、
自己成聖に重点。タテ構造、政治アレ

る勇氣を持つことが対話のための必
要条件である。



ルギーなど。)

※個人的祈りの大切さを認めながらも、新しい流れとして共同体意識を明確にしていかなければ、典礼の刷新の理解もおぼつかないのではないか。

※共同体ということばも一般的によく使うが、非常に曖昧である。例えば仲よしグループやサロンのなものでないことを明確にしなければならぬ。

※共同体といっても、概念が漠然としていて、結局何も動きが生まれないのではないだろうか。

※その意味で、基礎共同体とし、小さな共同体を摸索することにはしてはどうだろうか。この中には家庭も入っている。

※基礎共同体という時、リーダーの養成が重要になってくる。

方向(2)更に深い関わりがもてるような小さな共同体(基礎共同体)を摸索する。

課題①リーダー養成の場を教区レベルで設定する。

②リーダー相互で連繋し、情報交換、相互啓発、協力のできる場をつくる。

※信徒がもっと積極的に典礼に参加できるようにすべきだと考える。

※司祭召命のことも含めて、司祭の常住していない教会のこと、また今後そのような教会も増えるだろうから、典礼

テーマ4

教会の自己刷新

話し合いの経過

ビジョン作りを進めていく中で、私たちをとり巻く社会を見るにつけ、教会自体、また信徒一人一人の自己刷新(福音化)が大きな問題となった。具体的に刷新を試みる上で、三つの柱を立てた。一つは教会の刷新、二つめは信徒の刷新、そして三つめは教会の社会に対する刷新

最初、これらの一つ一つを順をおって取り上げようとした。話し合いは前進後退を繰り返した。キリストを信じる点では一致しているとはいえず、教会観や、福音に従って生きる姿がまちまちなものであろう。教会、個人の刷新を話し合っていく上で、いつも見過ごせなかったことは、社会からの教会への要請と言うことであった。それで三つめの柱を大前提にもってきて、その下で他の二つの刷新を考え

奉仕者養成にも取り組む必要がある。※みことばの祭儀にも、もっと信徒が積極的に参加できるようにならないものか。

方向(3)一般信徒にもっと積極的に、キリストの祭司職に参加できる機会を与える。

課題①典礼奉仕者の育成。

②みことばの祭儀の運用方法を明確にする。

ようにとした。けれども教会自体としての浄化・整理も必要だったので、この案は、すぐには全員の同意を得られなかった。

そこで「社会」をもっと具体的に考え、それが隣組であり、職場、地域、国内、国外、そして特に、しいたげられた人、弱い立場の人々であるとしてとらえた。そして教会はまさにこの社会の中にしか位置しないことを確かめたい、これらの人々との関わりの中でしか刷新は考えられないというところで全員の一致を見た。

はじめ、三本柱の刷新であったが、社会の中で教会という大きな土台をすえて、その上での教会、そしてそのメンバー一人一人の刷新を考えた。

結論

社会の中の教会の自己刷新

(社会のニードにかかわる教会)

一、教会の自己刷新

(1)教会行事をもう一度見直す必要あり (2)仲良しグループ作りの域にとどま

終わりに

※その他、日本の文化をどう活かすか、社会の福音化のこと、また共同祈願を大事にし、その中で小さな人々、アジアの人々のことをもっと考える方向など考えてはといった発言もあったが、上記の方向と課題を果たす中で考慮していく。そしてこれらを更にすすめて、次回のビジョン作りの中で考えていくようにしてはということであった。

(西野)

ていではいけない。

②社会に対して開かれたものが少ないのではないか。

③社会の中で働くキリストを見つけ出す努力がほとんどない。

(2)教会共同体がその本質的部分、すなわち神の奥義を共に探しながら、それに応じて自分を変えていくというところを見失い、かえって司祭間において、信徒間において、司祭と信徒間において、多くの行きちがいがあつた。このことが共同体の成長を妨げている。

二、信徒自身の自己刷新

(1)真のキリスト者としてのダイナミックな養成に欠けている。従って、もっと開かれた心で聖書を読み、黙想・研修を通して自己啓発に努める。社会とのより深い真剣な関わりを促す。

(2)家庭においても、生活のリズムの中に根を下ろした祈りに励み、家庭の中に共に生きるキリストを見出し、共に生きよう。

(越知)

テーマ5
**社会に対して教会は
 どのような関わりを
 もとうとしているか**

グループのメンバーが前回と大幅に変わったため、内容もかなり異なった結果となった。(ポイントが示された)

〈話し合いの経過〉

最初に方向性を考えようということで、二つの内容が漠然と出された。次にこれらについて討議を行ない、どのような言葉で表わすかを考えた。それから各々の課題を考えようとしたところで行き止まった。(「課題」という言葉がどの程度のものであるかがわからなかった。)

そこへ、山田経三師が討論に加わって下さり、「その二つの内容を大まかな課題として、方向性を別に考えてはどうか。」すなわち、内容の底に流れるもの、社会の中でキリストを見い出すという内容を方向性に入れてはどうか。という提案をして下さった。それについて討議した結果、次のような文章が完成した。

〈結論〉

方向——社会のそれぞれの場で働いておられるキリストを見い出していこう。

(1) 私たちの信仰を、自分の召されている場(例えば職場、家庭、およびその近隣、あるいは病床など)での毎日の態度、行動の積み重ねで、探求し、あらわそう。

(2) 貧しい人、苦しむ人(例えば障害者、病人、老人、被差別部落の人、在日アジア人など)の実状、おかれている環境、その願いを知り、同じ仲間としてともに学び支えあおう。

〈討議内容〉

(1) について——

これまで「信仰の場」は主に教会、日曜日とされてきたが、今考えるべきは、むしろ月曜日から土曜日、また家庭、職場などの日常の生活の場ではないだろうか。これについて特に企業で働く人に焦点をしばって話し合った。つまり、企業においては、そこに働く人間は、ひとつの歯車としかみなされない。したがって、企業はしばしば良心に反すると思われるような行動をとることがあるが、その場合、疑問や意見をもっともどすることでもできず、歯車として働くしかないという状況が起こる。そのような時に、あまり深く考えず逃げがちであるが、もっと真剣に考えてみてはどうか。ここから発展させて、さらに主婦や病床にある人などについても、同様のことがあてはまるのではないかと結論に達した。

(2) について——

社会において弱い立場におかれている人のことを、我々はあまりに知らなすぎるのではないかと、というところから討論をはじめた。具体的に被差別部落の問題が例に出され、差別のとらえ方についていろいろな意見が出された。

方向性について——

キリスト、あるいは福音を伝えるということに重点をおく意見も出されたが、結論としては、山田師提案の「キリストを見い出す」というものになった。これは、「我々はキリストをよく知っているが、知らない人に伝えよう」という態度より、むしろ「社会の各々の場で働いておられるキリストを見い出そう」という謙虚な姿勢を強調するものである。(石原)

テーマ6
教会組織の近代化

前回までの合宿で話し合ってきたことを土台にして、京都教区の中で、どのようにして教会組織を近代化するかという方向で話し合いを始めたが、途中から、主題をより具体的に示した「司祭と信徒の役割は何か」という副題の線からすれば、かなり抽象的な目標「社会とのかかわりのなかでの教会」という内容での論議に時間が経過し、なかなかまとまりをみせなかった。

しかし、最終的には、社会とのかかわりという目標は、非常に大切ではあるが、六グループのテーマ全部を超えた根本的な方向付けの中でうたうべきであるとして、本グループが受け持った仕事としては、あらためて「司祭、信徒の役割」という内容に限っての教会組織の近代化如何というところで進めるべきであること。

またたとえ簡素として整ったものではなく、大いに泥臭い幼稚なものになったとしても、とにかく個々の目標を羅列してみようということになり、その結果次のようなものが挙げられた。

- ※ 司祭、修道者、信徒の分担をはっきりする。
- ※ 共同責任を遂行する。
- ※ 信徒にゆだねられる事は、出来るだけ信徒に、という基本方針の確認と徹底をはかる。

- ※ 信徒使徒職リーダーの育成に努める。
- ※ 司牧評議会の設置。
- ※ 構成員相互間のかかわりを深める。
- ※ 構成員の主体性尊重と責任の自覚を深める。

※ 全員参加を可能にする組織をつくる。
 ※ 役割に伴う権限を明確にする。

そして、これら全部の上に立って、「近代社会における一般的なメカニズムを謙虚に学んで行こう」という姿勢に立つての組織作りを目指す」という根本目標を打ち出した。これは、従来、お互いの愛、善意というものに甘えて、一般社会がすでに数百年前から踏み出した近代民主主義社会の実現ということに、教会内では必ずしも積極的ではなかったことに対する反省をも含めての討議の結果出された結論であり、京都教区としてのビジョンについても、この点が見過ごされてはならないというグループの一致した意見に基づいてまとめられたものである。

過日突然に会長さんより、教区時報一欄に書いて下さい。加えて神父様の名差しですとまで言われともかく断わり切れなくてこの重荷を背負いこんでしまつた。そこで改めて第七二号を開いてみて驚いた。そこには主任神父様が記していらつしやる。ついで号を辿ってみるとだんだんと落着かない精神状態になって来た。でもここでもやもやを制しつつ。何故うち、主任神父様は御遠慮なさつたのかしら？と考へてみることにした……

ここ御所教会はめぐまれた緑の美しさの中に、幼稚園から始つて老人ホーム、虹の家、難民キャンプ、修道院加えて流れの向うに天の門と呼ばれる墓地まで含



刈り入れの
主に祈る

んでいる。それで我々信徒は、良き牧者のもとに集う羊の群のように、喜びと平和の中に祈りによつて結ばれていると言えようか。……所が羊飼は、羊の願う所又はその時に何時も居る苦のものでもない不在となることも有り得る、とするとあの欄は神父様のなさる部分と言う風にきめつけない第一歩として、お株が廻つて来たのかな……。でもやはり主任神父がいらつしやらないのは大変なこと。そこで召出しの祈りをもつと熱心にとなえることとの結論に達した。

働く人を送つて下さるよう刈り入れの主

に祈れ……と主のみことばである。
(シスター肥塚文責)

大和平野の西南端に位置し大和の国の夜明け、早くも原始的な国家を形作ったことは御所市内各所で出土している土器、石器、銅鐸、はにわ、遺構等によつても明らかです。御所市は、また戦国時代から商工業の町として発展し、絞り油、大和紺、薬物合剤の製薬と配置売薬の発祥地として知られています。

御所教会は市の南端に位置し、飛鳥の里と巨勢山に挟まれ、29年前マリソト会(オーストラリア)の

ミルス師により最初の洗礼が授けられました。昭和27年、敗戦の混乱期より社会状況も立直

つた時期でした。御所教会はおよそ2万5千平方メートルの広大な敷地を持ち、聖堂は47年に建設、純日本式で杉、檜をふんだんに使

い、障子を開けると立派な庭園を見ることが出来ます。27年教会誕生と同時に保育所も併設され、初代ミルス師に続いてガラハ師が赴任、31年には正式に幼稚園が発足。

当時ガラハ師は若く中高生の求道者も多く教会は若い力が漲っていました。次にアルトン師に替り、若い学生信者及び求道者はア師の運転するジープに乗り、奈良県の三分の一をしめる五条市と、吉野郡の山間部に点在する信者の家庭訪問、パンフレットの配布をしたものでした。

小教区の頁

御所教会



次いでハーコム師を迎え、36年、教会内に老人ホームが建設され、聖ヨゼフ会のシスター方によつて運営され修道院も出来ました。同時に幼稚園もシスターにより教育されることになり、この片田舎に一躍特異な幼稚園として変身、45年にはカノッサ修道女会に交替、ごミサへのシスター方の参加、老人ホームより入信者の増加により大変賑やかになり、旧来の

氏の家族から6人の姉妹が全員シスターとなり、全国で活躍されています。教会内の施設は他に、県の教会墓地も整備、おもちゃライブラリー・紅の家、55年にはペトナムハウスも設置されました。おもちゃライブラリーは、自閉症の子供達の機能回復の場として、毎土、日曜日使用され、ボランティア活動(老人ホームでの散髪もしている)も盛んです。

ペトナムハウスでは現在52名が収容され、入れ替りの激しい中で日本永住希望の夫妻も一組でき、担当のカーテイ師は、多忙をきわめる毎日を過しておられます。

聖ペトロ・シャネルとともに

教会の活動としては少い信者数(実数一二二名、ミサ参加七〇名)ながら家族的であり、信者会には壮年、婦人、青年、子供の各部があり、レジオマリエと共に司祭、シスター方の指導で教会の行事が活発に行われています。土曜学校も未信者の子供が殆んどですが、一二〇名が宗教、英語教育を受けています。布教面からは田舎のことでもあり、仏教の壇家が多く、地域の福音化は非常に困難ですが、親しみのある村人達の為に祈りながら努力を重ね、新しく生まれ変わって大きく発展したいと願っています。

(清富康徳 文責)





現代社会にある教会に望む

— 障害者から見た教会 —

久居教会 富永 妙子

私は三十年程前、当時難病奇病と言われた「脈なし病」で、両眼共全く失明してしまいました。家族のいたわりと愛情の中で育てられ、盲学校に学び、生活訓練を受け、身の回りの事も一応不自由を感じないまでになり、今では家族の行き

届いた何気ない配慮のお陰で、家庭の中では全く障害の身である事を忘れてしまいう程です。……

一歩街に出ると、近年福祉の向上は目覚ましく、道路には点字ブロックの敷設、音の出る信号機、自動販売機の点字表示等理解といたわりが感じられ喜んでいきます。内面的にも、神様は私に肉眼にかえて霊の眼を与え恵んで下さいました。教会に導かれ、信仰によって救われた私は、喜びと感謝の日々を送っています。が、意外な事に教会の中には、障害者への思いやりが余りありません。

今でこそ「聖書と典札」の点字版が発行され本当にありがたい事ですが、それでも、典札聖歌は点訳されておらず、声を合わせて讃美する喜びを味わえません。聖書を学ぼうとして、仲間入りしても、

スライドやオーバーヘッドの使用は、私にはかえって理解をむずかしくしてしまいます。もし誰かが小声で説明してくださいれば、どんなに嬉しい事でしょう。マリア様とヨゼフ様の御像が廊下に並べられた時には、私はその台に突き当たって痛い思いをし、その上お花の入った花瓶をひっくりかえし大変つらい思いをしました。ある障害者の集いに行った方が

気持ちがいいし楽しいと言われました。同じ障害者である私の友人は、教会で神様の声をかけてもらえないし、皆さんとの交わりにも入れてもらえないと言っていました。とうとう教会に行かなくなりました。確かに障害者の側の甘えもありましたが、イエス様様の盲人に対する憫れみ深い愛情を思い出し、残念に思いました。復活された主は教会の中で今

「自分に受け入れることはしんどい。パウロとかいうお偉い方もキリストさん受けられるの、ものすごく苦しまはったんとかがいまっか」

「それに、みんなに仕える者こそ一番偉いという教えもありましたな。氣にくわん奴でも、仕えなあかんのですな。ワシら残念ながら、争って上席のうばいあいしとりますわ」

「そう云や、他のモグラけなしとると、自分が偉くなったように思います」

「頭ではわかっているつもりでも、根からわかっているわけじゃないんですな。キリストさんの教えが」 (亜)

「神父さんモグラ、また来てくださったんですか。すんませんねえ」

「二、三回教会に来たかと思ったら、また来なくなつたとおっしゃるんですか。実はね、今度

はカミさんが行きたくねえて云いだすんで、まあ今に始まつたことではないですがね」

「訳は話さなくても、カミさん連中のいろいろなお聞きでしょうから。キリストさんが教えた、目の中の梁と埃の話みたいなもんですな」

ふたたび

根からわかっているのか

「訳は話さなくても、カミさん連中のいろいろなお聞きでしょうから。キリストさんが教えた、目の中の梁と埃の話みたいなもんですな」

「はめることは難しいですな。特に皆から悪く思われているモグラをはめること

も生きておられるのですから、教会の兄弟姉妹の中に、キリストの愛が生き生きと働いているのを見たいものです。

教会の中には障害者の方も多く、主にあって兄弟となった共同体の中で、健常者も障害者も、それぞれ賜わったタレントを惜しみなく生かし、仕え合って「あなた方はキリストの体であって、一人一人はその部分である」との自覚を持ちたいと思います。そうする事によって「完全参加と平等」のスローガンをもって始まった国際障害者年も、教会の中ではらしい実を結ぶ事でしょう。更に教会は社会に向かつて開かれ、疎外感に悩む人々を、真の憩と回復の場として暖かく迎え入れるキリストの教会となるのではないでしようか。

つひに

◎一般的にはごく当り前のことが、キリストを知ることによって変えられていく。例えば人間関係。いつもキリストのよう

に実行してはいけないけど、あきらめずに頑張ろうとする心、これは失わないでおきたい。キリストも助けてくださる。

(T・O)

あなたの後について歩んで来たつもりなのに……。モグラの寝言を聞いていると、ちっともあなたの心が見えていないことがはつきりしてきます。それでもわたしはあなたについてゆきたいのです。根っからわかっている。わたしに光をあたえて下さい、見えるように。(Y)

小さき者よ 国際障害者年に思う(4)

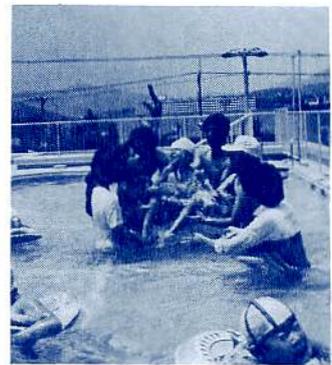
施設紹介—聖ヨゼフ整肢園・マリア養護学校

は、学業を中断することなく療育できる
よう、隣接の聖マリア養護学校に通学、
あるいは病室で教育を受けている。ここ
で明るいニュー
ースをお知らせすれば、知
能の発達には
まず問題がな
いの手や足
にマヒが出て
成長するにつ
れて障害が目
立つようにな
る従来ではま
ず治らない難



病とされている脳性マヒに対する治療は
一段と進歩し、障害の多くは早期診断、
早期治療で未然に防ぐことができるよう
になった。当園においてもドイツよりボ
イタ法を導入し、乳幼児期の児童の治療
が積極的に進められている。その治療方
法は、普通週一回外来通園により、医師
との連携のもとに専門の訓練士から、
訓練を受け、同時に両親(主に母親)も
指導を受けて家庭で一日3回から4回の
訓練を行わなければならない。しかし、
集中的に、効果的にするためと、遠隔地
で通園が困難な場合は、母親と一緒に入
園し訓練を受ける。このように治療が早
期から行なわれれば、一人ひとりの児童
が可能な限りその機能をよくすることが
出来ることは、大きな喜びである。

聖ヨゼフ整肢園
は、医療法にもと
づく小児整形外科
小児神経科の病院
として、児童福祉
法にもとづく肢体
不自由児施設とし
ての性格を持ち、
医療と療育の二面
を機能的に総合す
る施設である。



◇ ◇ ◇
聖マリア養護学校も創立六年目を迎える
事が出来た事は、ひとえに多くの方々
の量的、物的な御支援によるものと深く
感謝している。
現在、小学部52名、中学部25名在籍し、
教職員24名が配置されており、肢体不自由

由養護学校というのは、障害の原因や種
別、心身の発達の状態、四肢や体幹機能
の障害の程度、或は二つ以上の重複した
障害などいくつものスクリーンによって
類別あるいは区分され得る実態をもつて
いる。従って教育現場においても際限の
ない方法論が試される毎日である。
体の不自由さのために尚更に助長され
る経験の不足を補い、学習意欲を増すた
めに、本年度は全校規模で合同学習や特
別活動をとり入れ活性化を図っている。
そうした中で子ども達が各自役割を決め、
全体の目標達成のために一生懸命がんば
る姿は、目の輝き、溢れる言葉、自由な
感情表出となって現われる。
人の心をつき動かし、精神を目覚めさ
せ、事物への興味と関心が湧き出し、問
題の解決や目的の達成のための創造的な
考えや行動が日常的に生起するようにな
れば、たとえ不自由な手でも星をつかみ、
曲った足を地の涯にまで伸ばし、寝たき
りの姿でモイゼのように祈り、地上の平
和をもたらすこともできるでしょう。



まことに生きるということ、自由、
不自由の別なく何と素晴しく、なんと努
力しなければならぬことでしょう。



時報が対話 おう「書く
の手段なら 者も読む者
ば「互いにも、投稿者
心を向けあ も編集者も

- ◆汗がしたたり落ちます。辛い血の汗では
ありません。でもひでりのためにひか
らびた子供達の体から汗がしたたる事
があるのでしようか。(MT)
- ◆只今、窓ぎわのトットちゃん。熱読中！
ほんまもんの教育、要理教育が何かを考
えさせる本。そしてとびきりのユーモア。
皆さんお読みになつては？(Y)
- ◆千代の富士優勝！その瞬間思わず電車
のテレビに向かって他の乗客と拍手して
しまいました。その後で知った人が乗っ
ていないか確かめました。(K)
- ◆天の川の目出度季節になりました。い
て座の方向が銀河の中心です。大きな大
きな神さまを実感します。(き)
- ◆湖上のヨットは止まっているかのよう
でも、動いている。私たちの生活の中
こんなこと沢山ある。(亜)
- ◆「モグラの寝言」を「モグラのたわ言」と
呼ぶタワケ者がいる。それでもいいから
みんなの意見を聞いてみたい。(J)
- (編集部から)長い間編集に携わってこ
られた飯尾悦子さんが前号をもって辞め
られ、新しく(K)こと赤沢清子さん(フ
ートルダム)が加わって下さいます。飯
尾さんありがとう。赤沢さんよろしく。

本紙を福音宣教に役立たせるため、
ご近所、お友だちにもお見せ下さい。